

港区における中高一貫校設置の方向性の変更及びアンケートの実施について

1 港区における中高一貫校設置の方向性の変更について

(1) 変更点

港区における中高一貫校設置の方向性について、以下のとおり変更します。

No	項目	変更前	変更後
1	1 (4) イ	令和6年度の区立小学校卒業生のうち、区立中学校への進学率は45.8%	令和7年度の区立小学校卒業生のうち、区立中学校への進学率は45.0%
2	1 (4) エ (イ)	併設型中高一貫校	併設型中高一貫教育校
3	1 (5) (追加)		(5) 令和8年3月以降の動き 令和8年3月25日付け区民文教常任委員会への報告において、6年間の一貫した教育を求める声や地域と連携した港区独自の連携型中高一貫教育校を評価する声など、双方の案を求める声があったこと等を踏まえ、改めて多様な選択肢について整理し、令和8年6月11日に開催した港区中高一貫校検討委員会において、2案の特色を生かす折衷案等を検討しました。
4	2 (4)	設置形態としては、以下の2案	設置形態としては、以下の3案
5	2 (4) ②	連携型中高一貫校	港区版連携型中高一貫教育校
6	2 (4) ③ (追加)		③港区版併設・連携型中高一貫教育校（区立併設型中高一貫教育校の新設＋港区版連携型） 区独自に併設型中高一貫教育校（中学校・高等学校）を設置するとともに、区立中学校10校との連携型中高一貫教育校とします。高校入学者は、併設型付属中学校からの入学者が半数、区立中学校10校からの入学者が半数を想定しています。

7	2 (4) イ イメージ図		(イメージ図修正。資料No.4-2の 4頁参照)
8	2 (5)	<u>35人学級、3クラス編成の学校規模を想定しています。</u>	(比較表形式に修正。資料No.4-2 の4頁参照)
9	2 (7) イ	<u>日本の大学への進学支援</u>	大学への進学支援
10	2 (8) ③ (追加)		<u>③港区版併設・連携型中高一貫教育校（区立併設型中高一貫教育校の新設＋港区版連携型）</u> <u>中学校：入学時に適性検査による選抜</u> <u>高等学校：付属中学校からの入学は無選抜。高等学校からの入学時は選抜があり、想定される選抜方法は、以下のとおりです。</u> <u>ア 特別推薦による選抜（学校が独自に行う推薦方法）</u> <u>イ 一般推薦による選抜（成績と面接などで広く選抜する標準型の推薦方法）</u> <u>ウ 学力検査による選抜</u>
11	2 (9) ③ (追加)		<u>③港区版併設・連携型中高一貫教育校（併設型中高一貫教育校の新設＋港区版連携型）</u> <u>設置経費合計：約101.7億円</u> <u>運営経費合計：約9.1億円</u>
12	4	令和8年 <u>6月</u> ～ 中高一貫校に関するアンケート調査 <u>8～12月</u> 第2・3回中高一貫校検討委員会 令和9年 <u>1月</u> 区民文教常任委員会（港区における中高一貫校の設置方針）	令和8年 <u>8月</u> ～ 中高一貫校に関するアンケート調査 <u>9～12月</u> 第2・3回中高一貫校検討委員会 令和9年 <u>3月</u> 区民文教常任委員会（港区における中高一貫校の設置方針）

(2) 港区における中高一貫校設置の方向性について

資料No.4－2のとおり

2 港区における中高一貫校設置検討に関するアンケートの実施について

(1) 港区における中高一貫校設置検討に関する区民アンケートについて

資料No.4－3のとおり

(2) 港区における中高一貫校設置検討に関する児童・生徒等アンケートについて

資料No.4－4のとおり

港区における中高一貫校設置の方向性について

区における中高一貫校の設置について、これまでの検討の経過を明らかにするとともに、設置に向けた方向性を次のとおり示します。

1 検討の経過

(1) 令和6年度までの取組

令和6年度は、教育委員会事務局内にプロジェクトチームを立ち上げ、先行事例である千代田区立九段中等教育学校への視察や、設置に向けた課題を確認しました。

(2) 検討委員会の設置

令和7年度から、中高一貫校の設置に係る方向性等を検討するため、教育施策に深い見識をもつ大学教授、千代田区立九段中等教育学校の校長、保護者の意見を反映する立場としてPTA役員等を委員とした検討委員会を設置し、設置手法や特色の検討に取り組みました。

(3) 保護者アンケート

区立の幼稚園及び小・中学校の保護者の意見を確認するため、令和7年8月7日(木)から同月22日(金)までの期間でアンケートを実施しました。

【アンケート集計結果】

- 回答数は、2,072件／13,967人(14.83%)
- 在園・在学の区分は、全体の71%が小学校保護者で、次いで幼稚園が17%、中学校が12%です。
- 地区別は、全体の33%が芝浦港南で、次いで高輪が25%、芝・麻布・赤坂はそれぞれ14%です。
- 進学希望は、全体の23%が「希望」、63%が「特色によって希望」、7%が「希望しない」、7%が「分からない」です。
- 設置賛否は、全体の41%が「賛成」、49%が「特色によって賛成」、3%が「反対」、7%が「分からない」です。
- 一貫校に求めることは、1位が72%の学力の向上、2位が58%の進学実績、3位が同率55%の部活動と独自の特色です。
- 一貫校の特色は、1位が74%のグローバル視点、2位が54%の日本の大学への進学実績、3位が51%の多様性の尊重です。
- 不安や懸念は、自由記述で758件の回答があり、「学力・進学・倍率への不安」、「制度・運営・教育内容への意見」等に関する回答がありました。
- 情報提供や説明が必要なことは、自由記述で794件の回答があり、「説明会・情報提供」、「理念・目的」、「入試・選抜方法」等に関する回答がありました。

(4) 踏まえるべき区を取り巻く社会経済情勢

ア 人口推計

全国的には総人口と年少人口ともに減少傾向が続く見込みですが、港区の将来人口は、港区人口将来予測（令和7年度改訂版）によると、長期的に増加傾向が継続し、令和32（2050）年には総人口が372,059人（令和7年比38.9%増）、年少人口が45,269人（令和7年比25.8%増）となる見込みです。

イ 私立中学校への進学率

令和7年度の区立小学校卒業生のうち、区立中学校への進学率は45.0%であり、半数以上が私立中学や国立中学等に進学しています。

ウ 進学・卒業を理由とする人口移動

港区における引越し（転入・転出・転居）に関するアンケート調査報告書（令和2年3月作成）によると、引っ越しのきっかけとして最も重要だったもののうち、転出の4.9%、転入の6.2%、転居の3.9%の人が「進学・卒業」を理由としています。

エ 都立学校の動き

（ア）私立高等学校の授業料の無償化

令和8年度から、全国的に、私立高等学校の授業料の無償化に関する支援について所得制限が撤廃される予定となっていることから、私立高等学校が今以上に魅力的な選択肢となる可能性があります。都立高等学校の志望動機にも影響を与える可能性があるため、都教育委員会は都立高等学校の魅力向上に取り組んでいます。

（イ）都立併設型中高一貫教育校の高等学校からの募集停止

都が設置する併設型中高一貫教育校の5校について、令和3年度から令和5年度までの期間に順次、高等学校からの募集を停止し、現在は、付属中学校からの入学者のみの進学となっています。

（ウ）「新たな教育のスタイル」の実施校の新設

都教育委員会は、港区白金に（仮称）「新たな教育のスタイル」の実施校として、高等学校を新設する予定で、令和11年4月の開校を予定しています。

（エ）公立中学校における35人学級の実施

全国公立中学校の一学級における定員が令和8年度から段階的に35人となることから、都立中学校・中等教育学校においても、段階的に募集人員の減を行う予定です。なお、都立高等学校全日制普通科の一学級の定員は40人を標準としていますが、現時点では、東京都教育委員会として減少は検討していない状況です。

(5) 令和8年3月以降の動き

令和8年3月25日付け区民文教常任委員会への報告において、6年間の一貫した教育を求める声や地域と連携した港区独自の連携型中高一貫教育校を評価する声など、双方の案を求める声があったこと等を踏まえ、改めて多様な選択肢について整理し、令和8年6月11日に開催した港区中高一貫校検討委員会において、2案の特色を生かす折衷案等を検討しました。

2 設置に向けた方向性

(1) 方向性の概要

港区を取り巻く教育実態及び保護者ニーズ等を踏まえ、区が独自に中高一貫校を設置する場合の具体像について、複数の手法を方向性として示します。令和8年度は、この方向性で示す具体像をもとに、詳細な検討を進め、設置に向けた方針を明らかにします。

(2) 設置目的

区の実態や保護者のニーズに応じた特色ある区独自の教育プログラムを、幼児教育からの一貫した理念により、計画的・継続的な教育課程として展開することにより、生徒がより安定した環境で学び、学力を向上させるとともに、生徒の個性や創造性を育みます。

(3) 設置の効果

港区における中高一貫校を設置した場合の効果は、以下のとおりです。

ア 進路の選択肢の拡大

区内の児童・生徒にとって、進学先の選択肢が広がり、より多様な進路選択が可能となります。

イ 港区ならではの教育の実現

区の実情や保護者のニーズに応じた特色ある教育プログラムを展開し、港区独自の教育を実現できます。

ウ 区の魅力向上

国際理解教育やICT活用など、港区ならではの取組を教育内容に反映させ、「教育の港区」を更に推進し、区の魅力向上につながります。

エ 小中学校との連携による相乗効果

教員の専門性が高まるとともに、区内小中学校との教育課程内外の連携により、学校全体の魅力が向上します。

オ 定住促進と子育て世帯の転入（少子化対策への貢献）

魅力ある学校運営により、子育てしやすい環境が整備され、区内への定住や子育て世帯の転入を促進し、人口増加と税収増加に寄与します。

(4) 設置形態

設置形態としては、以下の3案のいずれかとします。

①中等教育学校（区立中等教育学校の新設）

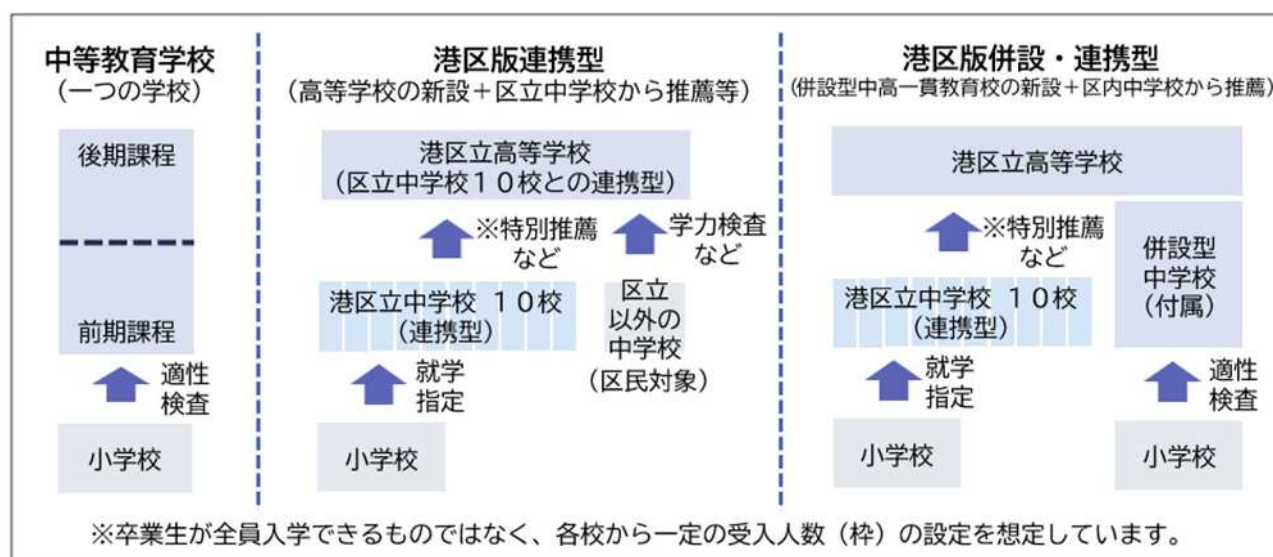
②港区版連携型中高一貫教育校（区立高等学校の新設）

区独自に高等学校を設置し、区立中学校10校との連携型中高一貫教育校とします。既設10校の中学と新設する高等学校の間で、部活動における生徒間の交流、総合的な探究の時間を中心とした連携授業などを中学校と高等学校の間で取り組みます。

③港区版併設・連携型中高一貫教育校（区立併設型中高一貫教育校の新設＋港区版連携型）

区独自に併設型中高一貫教育校（中学校・高等学校）を設置するとともに、区立中学校10校との連携型中高一貫教育校とします。高校入学者は、併設型付属中学校からの入学者が半数、区立中学校10校からの入学者が半数を想定しています。

（参考）中高一貫教育の実施形態イメージ



（５）学校規模

	①中等教育学校 （区立中等教育学校の新設）	②港区版連携型 中高一貫教育校 （区立高等学校の新設）	③港区版併設・連携型中高一貫教育校 （区立併設型中高一貫教育校の新設＋港区版連携型）
1学級の人数	35人学級	35人学級	35人学級
各学年の学級数	3学級編制	3学級編制	中：2学級編制 高：4学級編制
総学級数	18学級	9学級	18学級

（６）整備場所

敷地条件やボリュームチェックの実施により、整備場所を検討する予定です。

（７）特色

港区ならではの中高一貫校を整備するため、以下を特色の柱とします。

ア グローバルな視点を持ち世界で活躍できる人材の育成【国際理解教育】

例：友好都市との交換留学、長期休業期間中の海外語学研修、海外修学旅行、大使館や企業と連携したキャリア教育、海外大学への進路支援など

イ 総合型選抜への対応などにより、大学への進学支援の充実

例：総合的な探究の時間を中心とした研究及び研究成果を発表するコンテスト等への参加

ウ 多様性を尊重し、一人ひとりのニーズに合わせた支援を行う教育 [インクルーシブ教育]

例：子どもの多様なニーズに合わせ、充実したＩＣＴ環境を活用した探究的な学習の場の提供

(8) 入学者選抜

①中等教育学校（区立中等教育学校の新設）

入学時に適性検査による選抜

※高等学校に当たる後期課程における入学選抜は実施なし

②港区版連携型中高一貫教育校（区立高等学校の新設）

高等学校入学時の選抜として、想定される選抜方法は、以下のとおりです。

ア 特別推薦による選抜（学校が独自に行う推薦方法）

イ 一般推薦による選抜（成績と面接などで広く選抜する標準型の推薦方法）

ウ 学力検査による選抜

③港区版併設・連携型中高一貫教育校（区立併設型中高一貫教育校の新設＋港区版連携型）

中学校：入学時に適性検査による選抜

高等学校：付属中学校からの入学は無選抜。高等学校からの入学時は選抜があり、想定される選抜方法は、以下のとおりです。

ア 特別推薦による選抜（学校が独自に行う推薦方法）

イ 一般推薦による選抜（成績と面接などで広く選抜する標準型の推薦方法）

ウ 学力検査による選抜

(9) 事業規模（想定）

	①中等教育学校 （区立中等教育学校の新設）	②港区版連携型中高一貫教育校 （区立高等学校の新設）	③港区版併設・連携型 中高一貫教育校（併設型中高一貫教育校の新設＋港区版連携型）
設置 （イニシャルコスト）	合計：約101.7億円	合計：約75.6億円	合計：約101.7億円
運営 （ランニングコスト）	合計：約8.2億円	合計：約5.4億円	合計：約9.1億円

(10) 教員確保策

教員の確保に向けて、区が独自に教員を採用する場合には、以下の対応が必要となります。

ア 教員採用試験の実施

区が独自に教員を採用する場合には、教員採用試験を実施します。試験実施に当たっては、採用試験問題の作成や採点などの対応が必要です。

イ 都教育委員会及び特別区人事委員会との調整

教員採用試験の実施日や内容については、小中学校の教員採用試験を実施する都教育委員会や特別区人事委員会との間で、日程の重複がないようするなど、あらかじめの調整が必要です。

ウ 給与条例等の整備

小中の教職員は、都が一括して採用や人事管理を行っていることから、教職員に関する給料表等を定めている給与条例等は、都が整備していますが、区が独自採用する場合には、区において関係条例の整備が必要です。

エ 教職員の人材育成など

教職員の研修等の人材育成は、現在、都教育委員会が担っていますが、高等学校教員を独自に採用する場合には、都に協力を依頼するなど、調整が必要です。

また、高等学校1校のみであることから、教職員の異動が硬直化するため、人材交流も含めた調整が必要です。

オ 高等学校籍の指導主事

小・中学校の指導等を行うため、区教育委員会事務局には小学校籍と中学校籍の指導主事が在籍していますが、高等学校を新設する場合には、高等学校籍の指導主事の在籍を検討する必要があります。

3 その他の検討事項

- (1) 上記のほか、教育内容、設置・運営コストの詳細などに関する課題は、令和8年度に定める設置方針において明らかにします。
- (2) 都立高等学校として新設が予定されている（仮称）「新たな教育のスタイル」実施校との連携についても、併せて検討します。

4 今後のスケジュール（予定）

令和8年	8月～	中高一貫校に関するアンケート調査
	9～12月	第2・3回中高一貫校検討委員会
令和9年	3月	区民文教常任委員会（港区における中高一貫校の設置方針）

港区における中高一貫校設置検討に関する区民アンケートについて

1 アンケート概要

(1) 対象

区民（18歳以上の区内在住者）

(2) 期間

令和8年8月15日から同年9月14日まで

(3) 回答方法

LoGo フォーム（電子申請サービス）を活用し、インターネット環境において実施

(4) 周知方法

- ・広報みなと（8月15日号）への掲載
- ・「すぐーる」により送付（区内幼小中の保護者）
- ・区ホームページ、LINE等を活用し、幅広く周知

(5) 回答の目安時間

3～5分

2 アンケート内容

(1) 説明文

港区では、子どもたち一人ひとりが自分の可能性を伸ばし、将来に向けて豊かに成長できる学びの環境を整えるため、区立の中高一貫校の設置について、検討を進めています。本アンケートは、こうした検討を進めるに当たり、保護者の皆様をはじめ区民の皆様のお考えやご希望をお伺いし、今後の方針に反映していくことを目的として実施するものです。

<これまでの経緯と現状>

これまで港区には

- ・高校受験の負担のない中高一貫校に通わせたい
- ・区民としての選択肢が広がる
- ・区の特徴ある中高一貫校を設置してほしい

など多くの意見が寄せられてきました。

こうした声を受け、令和6年度から中高一貫校設置に向けた検討を開始し、これまで設置の方法や教育内容の方向性などについて検討を重ねてきました。

現在、港区では、国際理解教育やICTを活用した授業、探究的な学びなどに力を入れており、小学校から中学校までの教育は着実に充実している一方で、こうした学びを高校段階まで継続し、発展させていく仕組みが区として十分に整っていないことが課題となっています。

また、進路選択の現状を見ると、区立小学校を卒業したお子さんのうち、区立中学校へ進学する割合は約45%にとどまっており、多くのご家庭が私立学校等を選択しています。これは、子どもに合った教育環境を求めていることの表れであり、区立学校においても、多様なニーズに応える選択肢が必要と考えられています。

さらに、東京都が設置している併設型中高一貫校については、現在、高等学校からの募集を停止し、付属中学校からの入学者のみが進学する仕組みとなっています。

このような状況も、区として新たな選択肢を検討する背景の一つとなっています。

加えて、全国的には子どもの数が減少する傾向にある一方で、港区の人口は今後も増加が見込まれており、子どもの数も引き続き増えていくことが予想されています。

こうしたことから、将来にわたって質の高い教育環境を確保していくことが、これまで以上に重要になっています。

<中高一貫校に期待されること>

港区に中高一貫校を設置した場合、次のような点が期待されます。

- ・高校受験にとらわれず、6年間を見通した計画的な学びができること
- ・区立学校の進路の選択肢が広がり、様々なニーズに対応できること
- ・これまで港区が大切にしてきた国際理解教育や探究的な学びなどを高校段階までつなげ、より深められること
- ・小学校・中学校との連携が進み、学びの連続性が高まること

<今後について>

中高一貫校の設置場所については、今後、さまざまな視点から検討を進めていく予定です。

また、開校時期については、令和9年度から具体的な準備に着手した場合、**最短で令和19年度の開校**を見込んでいます。

<中高一貫校の設置形態案>

中高一貫校の設置形態については、以下の3案を検討しています。

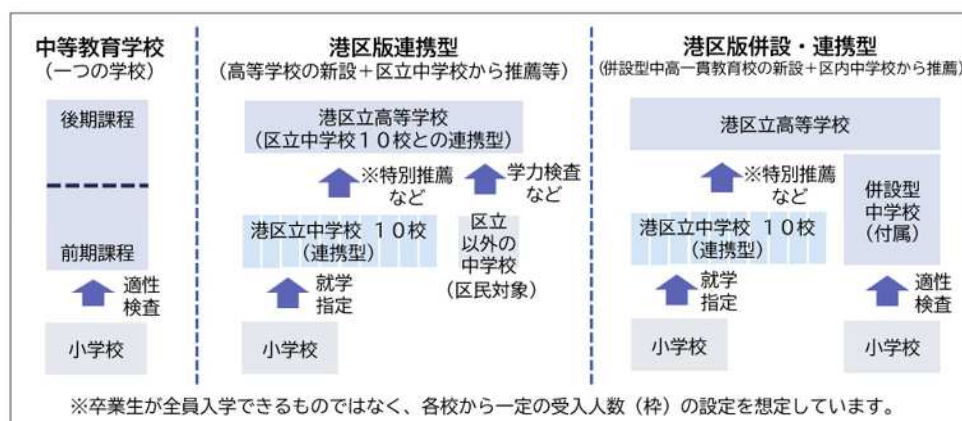
①中等教育学校（区立中等教育学校の新設）

②港区版連携型中高一貫教育校（区立高等学校の新設）

区独自に高等学校を設置し、区立中学校10校との連携型中高一貫教育校とします。

③港区版併設・連携型中高一貫教育校（併設型中高一貫教育校の新設＋港区版連携型）

区独自に併設型中高一貫教育校を設置するとともに、区立中学校10校との連携型中高一貫教育校とします。



また、中高一貫校の設置（案）の比較は、以下のとおりです。

項目		① 中等教育学校	② 連携型	③ 併設・連携型	
入学者選抜の有無	中学校	有	無	有	
		適性検査（入学選抜）による選抜	区立中学のため無選抜	適性検査による選抜	
	高等学校	無	有	無	有
		6年一体のため無選抜	特別推薦、一般推薦、学力検査の組合せ	付属中学校のため無選抜	特別推薦、一般推薦、学力検査の組合せ
特色		[国際理解教育] グローバルな視点を持ち世界で活躍できる人材の育成 例：友好都市との交換留学、長期休業期間中の海外語学研修、海外修学旅行、大使館や企業と連携したキャリア教育、海外大学への進路支援など [探究・進学支援] 総合型選抜への対応などにより、日本の大学への進学支援の充実 例：総合的な探究の時間を中心とした研究及び研究成果を発表するコンテスト等への参加 [インクルーシブ教育] 多様性を尊重し、一人ひとりのニーズに合わせた支援を行う教育 例：子どもの多様なニーズに合わせ、充実したICT環境を活用した探究的な学習の場の提供			
設置経費※		約101.7億円	約75.6億円	約101.7億円	
運営経費※		約8.2億円	約5.4億円	約9.1億円	
各学年の学級数		35人×3学級	35人×3学級	中学校：35人×2学級 高等学校：35人×4学級	
形態ごとの特徴	教育の一貫性	◎	△	○	
	高校からの受入れ	×	◎	○	
	区立中学との連携	△	◎	○	
類似学校		千代田区立九段中等教育学校	都立永山高等学校 多摩市立諏訪中、星陵中、多摩永山中 （各中学校から10人の進学枠）	類似例なし。	

※試算した経費は、令和6年度決算額等をもとにした積算であり、物価上昇等の状況により、更なる追加経費が必要となる可能性があります。

(2) 設問

①お住まいの地区をお選びください。【1つ選択】

- ☐芝地区（住所に、芝、海岸一丁目、東新橋、新橋、西新橋、三田一～三丁目、浜松町、芝大門、芝公園、虎ノ門、愛宕が含まれる方）
- ☐麻布地区（住所に、東麻布、麻布台、麻布狸穴町、麻布永坂町、麻布十番、南麻布、元麻布、西麻布、六本木が含まれる方）
- ☐赤坂地区（住所に、元赤坂、赤坂、南青山、北青山が含まれる方）
- ☐高輪地区（住所に、三田四～五丁目、高輪、白金、白金台が含まれる方）
- ☐芝浦港南地区（住所に、芝浦、海岸二～三丁目、港南、台場が含まれる方）
- ☐港区以外

②年齢を教えてください。【1つ選択】

- ☐10代 ☐20代 ☐30代 ☐40代 ☐50代
- ☐60代 ☐70代 ☐80代 ☐90代以上

③お子さんはいらっしゃいますか？【1つ選択】

- ☐いる ☐いない

④上記③で「いる」と答えた方にお聞きします。お子さんの年代を教えてください。【複数選択可】

- ☐0歳～5歳 ☐6歳～11歳 ☐12歳～15歳
- ☐16歳～18歳 ☐19歳以上

⑤上記③で「いる」と答えた方にお聞きします。お子さんが現在通っている園・学校の種類について以下のAとBの両方を回答してください。お子さんが2名以上の場合はそれぞれお答えください。

A【1つ選択】

- ☐区立 ☐都立 ☐国立 ☐私立 ☐その他

B【1つ選択】

- ☐保育園 ☐幼稚園 ☐小学校 ☐中学校 ☐中等教育学校
- ☐高等学校 ☐高等専門学校 ☐大学・大学院 ☐専門学校・各種学校など

⑥区立学校以外にお子さんが通学されている方にお聞きします。港区立の小中学校以外を選択する理由は何ですか？【複数選択可】

- ☐進学実績
- ☐校風・ブランド
- ☐英語教育
- ☐大学進学支援
- ☐部活動
- ☐設備環境
- ☐少人数教育
- ☐その他【自由記述】

⑦港区において、区立中高一貫校の設置は必要ですか？【1つ選択】

- ☐必要
- ☐どちらかといえば必要
- ☐どちらでもない
- ☐どちらかといえば必要ない
- ☐必要ない

⑧上記⑦の選択理由を教えてください。【自由記述】

⑨お子さんが対象年齢になった場合、港区立中高一貫校への進学を希望しますか？【1つ選択】

- ☐希望する
- ☐特色によっては希望する
- ☐現時点では分からない
- ☐希望しない
- ☐本設問の対象ではない

⑩中高一貫校への通学時間は何分程度まで許容できますか？【1つ選択】

- ☐ 15分以内
- ☐ 30分以内
- ☐ 45分以内
- ☐ 60分以内
- ☐ 2時間以内

⑪港区立中高一貫校の設置形態について、どの形態が望ましいですか？【複数選択可】

- ☐ 中等教育学校（中学・高校を一体で運営）
- ☐ 港区版連携型中高一貫教育校（新たに区立高校を新設し、全区立中学校10校と連携）
- ☐ 港区版併設・連携型中高一貫教育校（併設型中高一貫教育校の新設＋港区版連携型）
- ☐ 分からない
- ☐ その他【自由記述】

⑫港区立中高一貫校に求めること（機能）を教えてください？【複数選択可】

- ☐ 国公立大学や難関私立大学に進学可能な学力の習得〔受験・進路〕
- ☐ 総合型選抜などの多様な受験形態に対応した進路支援〔受験・進路〕
- ☐ 技術職などに結びつく実践的なスキルの習得〔受験・進路〕
- ☐ 高校受験にとらわれない6年間で、学習に集中できる環境〔学習環境〕
- ☐ 高校受験にとらわれない6年間で、部活動に打ち込んだり、各種コンクールや社会貢献活動などに参加したりできる環境〔学習環境〕
- ☐ 興味や目標に近い仲間と学べる機会（ゼミ形式・少人数の探究グループなど）〔学習環境〕
- ☐ 企業・大使館と連携した取組、文化財などの地域資源を活用した取組など、区ならではの教育〔学習環境〕
- ☐ 時間割や学習計画に選択の幅があること（選択授業や個別の時間割を取り入れることができる仕組み）〔多様性〕
- ☐ 教室での授業に限らない、多様な学び方（オンラインや個別学習等）を選択できる環境〔多様性〕
- ☐ 大学教員や専門家との相談窓口（探究の相談、研究の進め方の助言など）〔多様性〕
- ☐ 求めることはない
- ☐ その他【自由記述】

⑬港区立中高一貫校の特色(教育内容)として期待することは何ですか？【複数選択可】

- ☐ 海外研修や大使館交流等を生かしてグローバルな視点を育み、世界で活躍できる人材の育成 [国際理解教育]
- ☐ I C T機器を活用した個別最適かつ協働的な学びの充実 [I C T環境]
- ☐ 多様性を尊重し、一人ひとりのニーズに合わせた支援を行う教育 [インクルーシブ教育]
- ☐ プログラミング教育や生成A I を活用した最先端な教育
- ☐ 海外大学と連携した留学・進学制度
- ☐ 期待することはない
- ☐ その他【自由記述】

⑭港区立中高一貫校の設置に向けて、期待する点、懸念点、その他ご意見があればご記入ください。【自由記述】

港区における中高一貫校設置検討に関する児童・生徒等アンケートについて

1 アンケート概要

(1) 対象

区民（小学校5年生以上17歳以下の区内在住の児童・生徒など）

(2) 期間

令和8年8月15日から同年9月14日まで

(3) 回答方法

LoGo フォーム（電子申請サービス）を活用し、インターネット環境において実施

(4) 周知方法

- ・広報みなと（8月15日号）への掲載
- ・区ホームページ、LINE等を活用し、幅広く周知

(5) 回答の目安時間

3～5分

2 アンケート内容

(1) 説明文

港区では、みなさんが将来もっと楽しく、もっと自分らしく学べる新しい学校づくりを考えています。そこで、「こんなことを学びたい」「こんな学校があったらいいな」といったみなさんのアイデアや夢を聞かせてください。このアンケートに正解・不正解はないので、みなさん一人ひとりの考えや思ったことを自由に書いてください。

<背景>

- 港区はこれからも子どもが増えていくと予想されています。
- 今は、小学校を卒業したあと、区立の中学校以外に進む人が半分以上います。また、都立の中高一貫校では、高校から入ることができない学校が増えています
- こうしたことから、港区では、進みたい学校の選び方をもっと増やしたい。港区ならではの学び（国際・探究など）を高校まで続けられるようにしたい。と考えています。
- 港区では今、中学校と高校がつながった「中高一貫教育校」という新しい学校をつくることを考えています。
- 新しい学校ができるのは、いちばん早くても今から十年以上先になりますが、どんな学校にするかは、今のみなさんの意見がとても大切です。
- ぜひ、みなさんの「こんな学校がいい！」を聞かせてください。

(2) 設問

①学年を教えてください。【1つ選択】

- ☐ 小学校 5 年生
- ☐ 小学校 6 年生
- ☐ 中学校 1 年生
- ☐ 中学校 2 年生
- ☐ 中学校 3 年生
- ☐ 高等学校 1 年生
- ☐ 高等学校 2 年生
- ☐ 高等学校 3 年生

②通っている学校を教えてください。【1つ選択】

- ☐ 港区立小学校
- ☐ 港区立中学校
- ☐ 国立小学校
- ☐ 国立中学校
- ☐ 国立高等学校
- ☐ 都立小学校
- ☐ 都立中学校
- ☐ 都立高等学校
- ☐ 私立小学校
- ☐ 私立中学校
- ☐ 私立高等学校
- ☐ その他

③学校で「もっとあったらいいな」と思うことを教えてください。【3つまで選択可】

- ☐ 英語をもっと学びたい
- ☐ パソコンやタブレットをもっと使いたい
- ☐ 理科や実験をもっとしたい
- ☐ 自分で調べたり考える授業を増やしたい
- ☐ スポーツや部活動を充実させたい
- ☐ 音楽や美術をもっとやりたい
- ☐ 友だちと協力する活動を増やしたい
- ☐ いろいろな国や文化を学びたい
- ☐ 困ったとき相談できる環境がほしい
- ☐ 特にない

④港区に新しい中学校と高等学校がつながった学校（中高一貫教育校）ができれば通ってみたいですか？【1つ選択】

- ☐通ってみたい
- ☐どちらかといえば通ってみたい
- ☐どちらともいえない
- ☐どちらかといえば通いたくない
- ☐通いたくない

⑤港区に中高一貫教育校ができた場合、その学校で学んでみたいことを教えてください。
【3つまで選択可】

- ☐英語や海外のこと
- ☐AI やプログラミング
- ☐理科や研究
- ☐医療や科学
- ☐起業（自分で会社をつくること）やビジネス
- ☐社会の課題を考える勉強（社会で困っていることを考える勉強）
- ☐芸術や表現活動
- ☐スポーツ
- ☐いろいろな人と学ぶこと
- ☐分からない

⑥どんな学校だったら通いたいですか？【3つまで選択可】

- ☐新しい校舎
- ☐広い図書館
- ☐最新の ICT 設備（パソコンやタブレットなどの機械）
- ☐自習できるスペース
- ☐海外の学校との交流
- ☐大学のような研究室
- ☐部活動がたくさんある
- ☐制服が魅力的
- ☐給食や食堂が充実している
- ☐多様な学び（オンラインや自分ペースで学ぶこと）のスタイルが選択できる
- ☐分からない

⑦「こんな学校があったらいいな」ということを自由に書いてください。【自由記述】

--